



青少年作文コンクール入賞者

心に残った出来事や、私を変えた一言など、自由なテーマで作文を募集したところ、304人から応募があり、次の皆さんが入賞しました（敬称略）。
☎ 生涯学習課（☎62-1036）

【最優秀賞】 1人

「一つの命」

柘植いずみ（朝日中3年）

【優秀賞】 10人

「新型コロナウイルスへの思い」

迫田壮真（日高小4年）

「自衛隊について」

三浦仁愛（日高小6年）

「僕の将来の夢」

岡島由宙（依佐美中1年）

「オリーブの花言葉」

安原実来（依佐美中3年）

「人生のあり方」

木村心（朝日中3年）

「自分のために」

千賀一花（朝日中3年）

「生の歩み」

覚知湧樹（株ジエイトクト高等学園）

「良い人の在り方とは」

杉浦捷斗（株ジエイトクト高等学園）

「安全に対する意識」

高田悠乃（株ジエイトクト高等学園）

「一人になって気づくこと」

永石優水（株ジエイトクト高等学園）

最優秀賞

「一つの命」

柘植いずみ

「ドリームボックス」を知っていますか。ドリームボックスを直訳すると、「夢の箱」になります。一見、すごく明るくて楽しそうな物に思えますよね。ですが、ドリームボックスとは、保護犬や保護猫を殺処分する際に使うガス室です。私は、最近ドリームボックスを知りました。

インターネットで調べ物をしていたとき、殺処分される保護犬を救うための活動の広告が流れてきました。その広告についていた、檻の中から「助けて」と目で訴える犬の写真を見て、ひどく心が痛みました。殺処分はあまり身近なことではないと思っていたため、保護犬について調べたことはありませんでした。ですが、その写真を見て、こんなに辛そうな犬がこの子の他にもいるなら、その子達を救うために何ができるのだろうかと思ひ、保護犬や殺処分について調べたことが、ドリームボックスを知ったきっかけです。

保健所に保護された犬や猫は多くの場合、里親を探して、新しい里親に引き取られるそうです。ですが、里親が見つからなかった場合は、殺処分されます。殺処分は安楽死で行われていると思っている人が多いのではないかと思います。が、実際には、先ほど挙げたドリームボックスの中で、二酸化炭素を充満させて窒息死させられます。犬や猫が、どれだけ怖くて苦しい思いをしているか、想像しただけでもとても胸が痛いのです。犬や猫は、生まれる場所を選べません。人

間の都合で、苦しい思いをさせられています。保健所に引き取られた犬や猫の中には、「引越しましや大型犬で飼えない」といった理由で飼い主から持ち込まれた子もいるそうです。人間の自分勝手な行動から、何も悪くない動物達が苦しんでいる現状を、変えていかなければならないと思います。

殺処分される犬や猫を減らすために、まずは知識を得ることもすごく大事なのではないかと思います。私は、今すぐに保護犬を引き取ることも、多額の寄付をすることもできません。ですが、現在の状況を知ったことにより、将来は保護犬を飼おうと思いました。犬が大好きなので、以前から将来は犬を飼いたいと思っていましたが、保護犬を引き取れるならば是非引き取りたいと思いました。このように、「知識を得ること」によって、これからの些細な行動も変えていけると思いました。

これから、殺処分される犬や猫を減らすために、たくさんの方の知識を得て、少しの行動から動物のことを考えて変えていけるようにしたいです。一匹でも多くの動物が幸せに過ごせるように、人間が、相手を想った行動を起こしていけばいいと思います。

